

入ることになりました。現在、8月末に広島放射線影響研究所にデータを提出するため、移行用の既存データの整理を行っている最中です。システム導入後は、生存率の算出、がん検診の有効性の評価に関する調査を行い、がん部会や県民への情報提供を行って行きたいと思っております。地方衛生研究所でのがん登録事業の実施は希ですが、沖縄県でも実施されていますので、お手本にさせていただきながら今後も努力していきたいと考えています。

村田紀先生を偲ぶ

三上 春夫
千葉県がんセンター研究局疫学研究部

平成18年3月14日、前千葉県がんセンター研究局疫学研究部長、村田紀(もとい)先生が永眠されました。享年67歳でした。先生は数年前より闘病生活を続けておられましたが、その間にも毎週疫学研究部にお見えになり、衰えることのない研究への情熱をもって私たちを励ましてくださいました。昨年7月末に肺炎を併発され千葉県がんセンターに入院されましたが、ついに回復されることなく、先生がこよなく愛された桜の季節を前に永眠されました。先生とは不思議なご縁で疫学分野の仕事をひとときご一緒させていただきました。その早すぎたご逝去の無念を想い、深く哀悼の意をのべさせていただきます。

村田先生は京都大学農学部で遺伝学の木原門下に学び、昭和38年同学部を卒業されました。修士課程を経て、先に就職していた同門の先輩の紹介で、昭和40年5月放射線医学総合研究所遺伝研究部(千葉県)に就職されました。昭和41年にご結婚された後、昭和47年に米国テキサス州ヒューストンにあるテキサス大学遺伝学研究所に派遣が決まり、ご家族を伴い留学されました。当時盛んになった集団遺伝学について研究を深められる傍ら、他の研究者と家族ぐるみの交流を通じて、お得意のケーキ作りをものにされたのも

この時期であったようです。

昭和48年の帰国後、それまでの遺伝学の研鑽を医学方面に生かすことを考えていたおり、千葉県がんセンターの初代センター長福間誠吾先生に請われて地域がん登録に携わることとなりました。しばらく放射線医学総合研究所と千葉県がんセンターの二足の草鞋を履いた後、昭和58年に千葉県がんセンターに疫学研究部長として着任され、平成12年に退職されるまで、千葉県がん登録の精度向上のために県内を行脚されました。登録業務と並行して、先生は染色体異常や家族性腫瘍に関わる研究を進められ、また早くから疫学データ処理へのパーソナル・コンピュータ導入に取り組みました。平成9年には千葉市において「がん登録とコンピュータ」をテーマに第6回地域がん登録全国協議会総会研究会を開催されました。

千葉県がんセンターを退職後、先生は放射線影響協会の疫学センター長を勤められました。自由になった時間を趣味の謡(うたい)に充てることできるようになり、疫学センター長を退職されてからは、一門を主宰しておられました。ある時、村田先生が退職パーティーのおり披露された大曲『山姥』について伺う機会がございました。山の精が深山幽谷を不羈奔放に駆けめぐるといふ、世俗を超越した存在の有様を謡ったものだと仰りました。その言葉に、飄々とした風貌、恬淡として日本酒を愛し、時に鋭く本質を一言に語る先生の生き様を伺ったように想ったものでした。合掌。

村田先生のこと、懐旧の情

岡本 直幸
神奈川県立がんセンター

村田先生とは、先生が放射線医学総合研究所に在籍しておられた昭和55年の地域がん登録の藤本班班会議で初めてお会いしました。実は、お会いする前から、放射線生物学がご専門で、わが国で早い時期からSCE(Sister Chromatid Exchange)研究をされていたことは承知していました。あれから25年になるでしょうか、

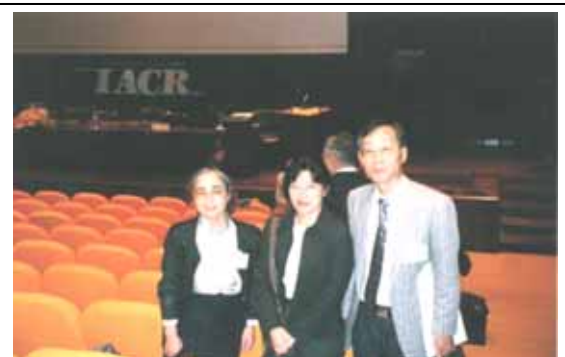


IACR アビジャン（象牙海岸）の懇親会で（97.11.5）



IACR リスボン大会へ向かう途中、セビアのグワダルキビール川河岸のレストラン、向かいには黄金の塔（99.9.26）

こんなに早くお別れが来ようとは…。先生とは何となく気が合っていました。疫学と地域がん登録を行う Ph.D という点、日本酒が好きだという点、互いの地域がん登録が東京医療圏に影響されているという点、などなど。といっても、村田先生は表面には出されませんでした。が“粋（いき）な方”でした。謡（うたい）のお師匠さんでありながら、ケーキ作りが趣味、牡蠣には目が無い、絵画に造詣が深い（なかでもゴッホの熱烈なファン）、「何でも見てやろう」的精神の持ち主。そのためでしょうか、1997年3月に奥様を亡くされて落胆されておられるとき、アフリカのコートディボール（象牙海岸）での IACR の学会へお誘いしましたら、即、参加のお返事でした。アムステルダム経由でしたので、トランジットの間に市内やブリュッセルを二人旅の珍道中を楽しみました。その後、毎年のように IACR の Annual Meeting に一緒させていただきました。お気に入り、松田先生（山形）、味木先生（現、国がん）、私とでスペイン（マドリッド、セビア、コルドバ、グラナダ）からポルトガル（リスボン）へ向かった4人旅でした。地中海気候の明るさと同じ、お元気な頃の先生が偲ばれます。飾り気の無い、忌憚りの無い、直接的な話法でしたが、それでいて暖かさやユーモアと安心を感じさせてくれる先生でした。昨年の3月ごろは9月にウガンダ（エンテベ）で開催される第27回 IACR に参加を希望されていましたが、6月頃に病に伏せられ、望みはかなえられませんでした。本年のブラジル大会、来年のスロベニア大会も楽しみ



IACR リスボン大会の会場で（99.9.29）

にされていましたが、“先生の思い”は命とともに消えてしまったのでしょうか。永久（とわ）の別離（わかれ）というのは、辛く、淋しい結末を残された人々に置いてゆくものです。2006/06/27 合掌。

第15回地域がん登録全国協議会総会研究会ならびに実務者研修会のご案内

松田 徹

山形県立がん・生活習慣病センター

第15回地域がん登録全国協議会を2006年9月1日（金）、山形県庁二階講堂にて開催いたします。今回の総会研究会では「がん対策におけるがん登録の役割」を主題として、がん対策において精度の高いがん登録が不可欠であることを、実際ががん対策に用いられた例を通してご紹介する内容となっております。また、総会研究会初の試みとして、地域がん登録事業の意義を市民の皆様へ周知する目的で市民公開講座を開催いたします。なお、前日